

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行 (財)第五福竜丸平和協会
連絡所 〒136-0081 東京都江東区 夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内 電話 03-3521-8494

東京湾要塞地帯・館山周辺を訪ねて

川口重雄

一月二十四日、マグロ塚を作る会第五福竜丸乗組員大石又七さん代表が主催する千葉の軍事施設跡・基地跡見学ツアーに参加して、千葉県富浦町・三芳村・館山市を訪ねました。

一昨年の中部電力浜岡原子力発電所見学、昨年の横須賀米軍基地見学に続く今年、参加者は総勢一八名、まず最初に着いたのは富浦町の大房岬。浦賀水道をへだてて三浦半島の剣崎と相対するこの岬が温暖なのは、県立少年自然の家に行く途中の道端に植えられた浜木綿や南国原産の樹高一〇mに達しようかというマテバ椎の林を見ればわかります。ところが、自然林だと思ったマテバ椎の林は七〇年ほど前に植えられた人工林、しかもカモフラージュのためのそれだったという説明を、戦跡ガイドの鈴木政和さん(「J」バス館山支店から聞いて驚きました。

標高約八〇mの台地状の大房岬には、東京湾に侵入してくる敵艦隊を防ぎとめ、帝都東京および横須賀軍港を守るために、一九三二年四門の大砲と二基の探照灯などからなる砲台が建設されました。そのうち口径二〇cmの大砲は、一九



二三年に結ばれたワシントン条約で軍縮の対象となった戦艦鞍馬のおふる、直径二mの探照灯は一九四五年夜間空襲にやってくる米軍機を照らすために使われ、今もマテバ椎の林のなかには昼間探照灯を隠しておいた施設が残っています。

続いて訪ねたのは三芳村の特攻ロケット桜花の発射カタパルト跡。桜花は人間魚雷回天、特攻艇震洋などとともに入江ア太平洋戦争末期に開発された特攻兵器で、カタパルトとはばちんこのようにして桜花を飛ばす発射台のこと。屋敷森に囲まれた農家の途切れた畑のなかに今もコンクリートの残骸をさらしています。

そして東京湾要塞地帯の中心・館山に今も残るのが「二八高地」抵抗拠点地下壕です。一九三〇年、帝都防衛の実戦部隊として館山海軍航空隊が開隊しました。一九四三年になると、館山航空基地に隣接して洲崎海軍航空隊も設けられ、四四年七月のサイパン島陥落後、洲崎航空隊の敷地内の標高二八mの山の一角に掘られたのが「二八高地」抵抗拠点地下壕です。地下壕のなかに入った私たちが見たものは今でも十分使えそうなモルタルの壁と「洲崎戦闘指揮所」「作戦室」という額でした。

もしも本土決戦が行われていたら、そんなことを考えながら地下壕から出てくると、そこは「かにた婦人の村」の敷地のなかでした。かつて洲崎航空隊のあった場所は、戦時中にさまざまな理由から従軍慰安婦として生活しなければならなかった女性たちの共同生活の場となっていました。二〇世紀の前半と後半と全く異なる歴史を刻んだ同じ場所、今私はそこに立っているのだという思いがこみ上げてきました。

鈴木さんにせかされるように登っていった山の上には、「噫、従軍慰安婦」と刻まれた石碑が立っていました。頂上からみえる館山湾は穏やかな海でした。(かわぐち しげお/丸山眞男手帳の会代表・調布学園教師)

寄贈資料を読む

福竜丸の「先史」を考える 徴備船の資料集 「知られざる漁船のたたかい―宮城の徴備漁船群―」

宮城県仙台市の郷土史研究家新関昌利さんの著作『知られざる漁船の戦い―宮城県の徴備漁船群―』がこのほど著者から展示館に寄贈されました。この資料集はA4版五三七頁の大部です。

まえがきによると、数年前に戦時船のことを知り、漁船に乗り組んでいた船員たちの戦いの実相はどのようなものであったか、とめるのは今しかないと考えました。徴備船の行動は軍事機密であり、知られていません。そこで体験者を訪ね、漁協や公民館などで資料を発掘するなど三年かかったそうです。

おもな内容は、「民間船舶の徴備」、「日中戦争と漁船の徴備」、「水上特攻黒潮部隊の戦い」、「本土防衛の拡大と戦場の影の力漁船群」、「徴備漁船の正確な数はつかめず」など、宮城県内

の漁船について関係者の聞き取り証言を中心に調査しています。昨年、私たち第五福竜丸ボランティアの会は、福竜丸の母校焼津で研修しましたが、そこで徴備船のことを調べている成瀬実さんから焼津漁民が大勢戦死したこと、久保山愛吉さんはその生き残りだと教わりました。

「久保山愛吉物語」(飯塚利弘著)には、久保山さんの船員手帳の徴備記録が出ており、戦時中、愛吉さんの虫垂炎の手術のために、兄の栄太郎さんが代わりに乗船して戦死したことが述べられています。

全国で多くの漁民と漁船が戦闘に動員され犠牲となったことは敗戦後の食糧難と漁業の奨励に際して漁民と漁船不足をもたらしました。

戦後九年目、被爆したときの第五福竜丸の乗組員は平均年齢二五歳という若者たちだし、戦後二年目に福竜丸の前身である第七世代丸が建造されたときは、GHQの占領政策から木造船の大きさは一〇〇トン未満に制限されていたし、遠洋は禁止され近海漁業のみとされていました。

寄贈資料の紹介

第五福竜丸は実質一四〇トンと大きく造られ、カツオ漁で威力を発揮し、後に遠洋への制限が解除されて遠洋マグロ漁船として改造され、その名も第五福竜丸となったのです。

水爆実験に遭遇した後「無電を米軍にキヤッチされて船がボカチンを喰らうといけない」と久保山さんが判断したのも徴備船に乗っていた時の経験が生かされたのではないかと思われまます。

徴備船の研究は、第五福竜丸の歴史の先史を成すものとして重要な意味があると思われまます。また徴備の制度、実態、歴史、その結末は、日本政府が戦争遂行のために国内のあらゆるものを動員し悲惨な末路をもたらしたことであり、こんにち有罪法制問題などを考えるうえでも重要な示唆を含んでいるのではないのでしょうか。

(遠藤昌樹/第五福竜丸ボランティアの会)
*『熊野からの手紙―熊野で造られた第五福竜丸の記録』徳田純宏著(編集工房ノア、一九八四年三月)

内山尚三さん逝去

札幌大学前学長で法学者の内山尚三さんが二月一日に亡くなりました。内山さんは湯川秀樹博士などが設立した「世界平和アピール七人委員会」の事務局長をつとめられ、また第五福竜丸の保存にご尽力され、平和協会設立の一九七三年以来評議員、九三年から顧問をなさっておられました。

一日刊。田川末吉氏より寄贈されました。

*金沢大学理学部助教授で低レベル放射能実験施設の山本雅儀氏が来館し、被曝から四〇年を経た時点での第五福竜丸の漁具、ボンデンの竹の残留放射線の調査報告書を寄贈されました。
報告書は「287Np IN HEMP-P
ALM LEAVES OF BONFENCH
IKU FOR FISHING GEAR USE
D BY THE FIFTH FUKURYU
—MARU-40YEARS AFTER BR
AVOJ



親と子の 平和のとりくみ

寺 沢 信 江

毎年、夏休みに「親と子の平和学習会」と名づけ第五福竜丸展示館に行くようになり、一〇年ほどになります。

午前中は第五福竜丸をおして平和の学習をし、午後は水族館や博物館の見学を組み合わせています。今年は日本科学未来館へ行き、親子で楽しく学ぶ一日を過ごしました。

行きのバスの中では「とびうおのぼうやはびょうきです」の紙芝居をして、ビキニで起きたことを説明しますが、実際に自分の目で第五福竜丸を見て感じてもらうことが大切だと思っています。

最近では若い親子の参加が増

え喜んでいますが、第五福竜丸のことを全く知らない世代が多いことを改めて驚き、伝えていくことの必要性を実感しています。

そういう意味でも今年から、大きなマグロの絵から話がはじまり、牛乳パックで船を作る工作をとり入れて、子どもたちにもよくわかるような工夫をされたことがよくわかりました。

食卓にのるマグロの話に興味を持ち、工作に参加する楽しみが加わり、楽しかったという感想が多く寄せられました。

子供たちが工作をしている間に、大人はゆっくり展示館の説明を聞くのも好評でした。

コープ神奈川の平和活動は、五月の平和行進、夏の原爆展、広島・長崎行動、二月の沖縄戦跡基地めぐり、3・1ビキニデー(静



岡)への参加が主な取り組みですが、地域ではほかの団体と実行委員会を作り、平和のイベントとしてコンサート、朗読、映画、人形劇、パネル展などを毎年催したり、ユニセフ募金に協力しています。春と秋に組合員から「平和のキャンパ」が寄せられ、広島・長崎行動などの参加費用に充てられています。

数年前からは広島こどもツアーム始まり、小学校低学年から高校生までがリーダーと一緒に戦跡を訪ね、被爆者の証言を聞いて、夏休みの貴重な体験をしています。

広報紙「ミオ」のお知らせや店内のポスターを見て、平和の催しにまず参加してもらい、少しずつでも、いろいろな活動に興味を持ってくれるよう努力しています。(コープかながわ南区平和グループ)



黒澤明監督作品 「生きるものの記録」 DVD寄贈さる

黒澤明監督作品「生きるものの記録」がこのほどDVDとして発売されました。

この作品は、ビキニ水爆実験による第五福竜丸の被爆事件、核兵器開発競争の激化のもとで、水爆実験に「殺されてたまるか」と日本からブラジルに移住しようとする年老いた鉄工所経営者を主人公(三船敏郎)に、核時代と人間、その恐怖と、のがれることのできない不条理を描いた作品です。主な出演者は三船敏郎、志村喬、千秋美、千石規子など。

このDVDには、映画制作の様を当時の関係者のインタビューを中心に再現するメイキングシネマの特典が収録されていますが、このなかに俳優の油井昌由樹さんのナレーションで第五福竜丸展示館でのビキニ事件の解説が入っています。

(モノクロー三分、製作についての特典映像二一分、発売・東宝、価格六〇〇円)

八王子盲学校の生徒たちと 先生から手紙と感想文

前号にて紹介しましたが、八王子盲学校の生徒、引率の先生から感想文と手紙が送られてきました。その一部を紹介します。

大槻美代子先生からの
おたより

朝夕の冷え込みも厳しさを増す季節となりました。

先日は、とてもいいねいに、わかりやすく説明していただき、生



徒たち一人ひとりの胸に、皆さまの情熱や思いが届き、理解も深まったことと思います。

また、大石さんが作られた船の模型、あることは知っていたのですが、触れさせていただけると、言う勇氣がなくてこれまで、遠巻きに眺めていました。でも、今回思い切って申し出たところ、快諾していただき、本当に感謝いたしました。特に全盲生にとっては、船の全体像を把握するうえで、とてもよくわかったのではないかと思います。

私自身、見学の下見なども含めて、展示館へは一〇回ほど足を運んでいます。訪れるたびに平和への思いを新たにしています。同行した若手の教員もお話に感動し、「高校生の間に一度はここに来るべきですよ。そして日本でもそ週に一時間ぐらい平和教育をやるべきですよ」と言っていました。やはり、真実のもつ迫力や命の尊厳は、人の心の深いところをとらえるものだ、しみじみ実感

しました。これからも、平和と命の尊厳を示す証として、凛として立ちつづけてほしいと願っています。(後略)

生徒たちから

すずき さや

先日は大変お世話になりました。船の模型は普段はガラスケースに入っていると、先生から教えていただきました。

私たちのために出していただけ、ありがとうございます。船のようすがよくわかりました。

また、水爆実験のことも詳しく説明していただき、よく理解できました。ありがとうございます。戦争や水爆実験のことを実感しました。

かもいけ やすのり

社会化見学のときは、ていねいな説明をありがとうございます。

石碑に刻まれ久保山さんのことがこころにのこりました。死の灰と輸血をしてC型肝炎ウ

イルスが入り、肝臓の病気になるという話がとくに印象に残っています。

ごとう こういち

小学生のときにも展示館に行っただけです。そのときはじっくり見る時間がなかったんですけど、今回はたくさん時間をかけて、じっくりと教えていただけだったので、第五福竜丸のことがよくわかりました。戦争や核兵器がどれだけ恐ろしいものかをあらためて認識できた気がします。

大森 はずき

建物に入っただけで目の前の巨大な船にすごく驚きました。下から見上げてもよくわからなかったのですが、模型を見て船の様子がよくわかりました。

世界のいろんな国が水爆実験をやっていると知り、早く核兵器がなくなってくれればいいなと思いました。